

[野菜部門 令和8年度 参考となる研究成果]

事 項 名	夏秋トマトの葉面散布による収量及び品質向上効果		
ね ら い	葉面散布が夏秋トマトの生育や収量・品質に及ぼす影響について検討した結果、収量及び品質が向上することを確認したので参考に供する。		
内 容	<p>1 葉面散布の方法</p> <p>(1) 散布資材：「メリット黄」300倍及び「カルタス」600倍希釈の混合液          メリット黄の成分：窒素3%、リン酸7%、カリ6%、マンガン0.1%、ホウ素0.2%、鉄0.08%、銅0.05%、亜鉛0.05%、モリブデン0.075%          カルタスの成分：酸化カルシウム(CaO)10%</p> <p>(2) 散布方法：生長点から開花花房に週1回、160L/10a散布。          なお、散布時間は210分/10a程度かかる。</p> <p>2 葉面散布の効果</p> <p>(1) 収量、品質          可販果収量は14%程度増加し、着色不良果や変形果、つやなし・軟果の割合が低下する(表1、2)。</p> <p>(2) 生育          茎径が太く推移し、草勢が維持される(表3)。</p>		
期待される効 果	葉面散布により、夏秋トマトの収量、品質向上が期待できる。		
利 用 上 の 注 意 事 項	<p>1 葉面散布資材として「メリット黄」及び「カルタス」の混合液を使用した結果である。</p> <p>2 葉面散布は第3花房開花から摘心時期まで行った結果である。</p> <p>3 本事項は高温年の結果であり、気象や栽培条件が異なると効果が変わる可能性がある。</p>		
問 合 せ 先 (電話番号)	農林総合研究所 花き・園芸部 (0172-52-4341)	対象地域 及び経営体	県内全域の夏秋 トマト経営体
発表文献等	令和6～7年度 農林総合研究所試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 トマトの収量

(令和6、7年 青森農総研)

	区名	総収量		可販果収量			月別可販果重量(kg/a)				
		(kg/a)	(果/株)	(kg/a)	(果/株)	(g/果)	6月	7月	8月	9月	10月
令和6年	葉面散布区	1,659	45.6	1,180	29.8	198	56	604	291	145	90
	対照区	1,600	43.8	1,185	29.8	199	38	591	311	165	80
	対照比	104	104	100	100	99	147	102	94	88	113
令和7年	葉面散布区	1,086	32.7	985	28.4	174	-	421	332	193	40
	対照区	1,015	33.1	867	26.1	166	-	406	236	180	46
	対照比	107	99	114	109	105	-	104	141	107	87

(注) 等級基準は「トマト標準出荷規格(JA全農あおもり)」に準ずる。  
可販果収量は、1果重が114g以上を集計。

表2 トマトの品質

(令和6、7年 青森農総研)

	区名	等級別割合(%)			C品以下の果数割合(%)				
		A	B	C以下	形状	つや軟	尻腐	着色	肩青
令和6年	葉面散布区	35	13	57	17.3	17.8	15.9	24.4	5.2
	対照区	30	12	56	20.9	10.9	14.3	32.6	4.3
令和7年	葉面散布区	23	53	24	29.5	6.3	13.4	2.7	22.3
	対照区	18	53	29	32.4	7.6	2.8	2.8	29.0

(注) 「形状」は空洞果を除く変形果、「つや軟」はつやなし果と軟果、  
「着色」は着色不良果、「尻腐」は尻腐れ果、「肩青」はグリーンバック果。

表3 茎径(mm)

(令和6、7年 青森農総研)

	区名	6月			7月				8月	
		第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週
令和6年	葉面散布区	9.3	10.2	10.2	9.4	7.9	6.1	6.3	6.8	-
	対照区	10.2	9.8	10.1	9.7	7.9	6.5	6.6	7.3	-
	対照比	91	104	102	97	100	94	94	94	-
令和7年	葉面散布区	-	7.9	7.2	6.6	6.9	6.4	6.3	6.9	6.9
	対照区	-	7.7	7.3	5.9	5.7	6.0	5.5	6.6	6.2
	対照比	-	103	99	112	121	107	115	105	111

(注) 生長点から15cm下の茎の短径を測定。

耕種概要

品種	穂木「麗月」、台木「キングバリア」
作型	定植 令和6年5月9日、令和7年5月16日 摘心 令和6年8月20日、令和7年8月15日 収穫期間 令和6年6月25日～10月18日、令和7年7月8日～10月17日
栽植密度及び誘引	200株/a。1条植え、条間1m、株間50cm。つる下ろし誘引。
かん水及び施肥	かん水同時施肥栽培。点滴チューブは「ストリームライン X80-01」、肥料は令和6年は「OK-F-1」、令和7年は「OK-F-3」(6月中旬から8月上旬は2230～3000倍希釈)を利用。かん水は1日1～4回行い、回数は畝内の土壌pFを2.0～2.2程度で維持するように調整。
その他	全面黒マルチ。摘葉は収穫が終了した果房以下。開花花房に「トマトトーン」の100倍希釈液を週2～3回午前に散布し、同時に1花房4花に摘花。

(参考) 資材価格等

資材	単価	10a 当たり費用	1株あたりに施用する成分量
メリット黄	1,574円/kg	12,950円	窒素72mg、リン酸168mg、カリ144mg
カルタス	2,198円/kg	5,275円	酸化カルシウム480mg

(注) メリット300倍及びカルタス600倍希釈混合液を1回当たり160L/10a、合計9回散布する場合。